

看護師の役割

国立がん研究センター
中央病院 看護部外来Ⅱ領域 副看護師長
朝鍋 美保子



National Cancer Center Hospital



国立がん研究センターが目指すもの がんにならない、 がんを負けない、 がんと生きる社会

生活をしながらのがん治療を実現する

- がんに罹患する前の生活により近いかたちで
- 患者・家族が望む生活により近いかたちで

外来通院でがん治療を受けられる体制の充実を図る
抗がん剤治療（標準治療）
治験（臨床試験）

治療エリアの拡大と設備面の整備

治験（臨床試験）ができる設備

観察機能を
より重視した
治療エリア



3

治験（臨床試験）ができる設備

アレルギーなど急変処置に迅速に対応できる救命救急室



従来の抗がん剤に加え、新規抗がん剤（分子標的薬剤）では頻度は少ないが重篤な副作用が生じる危険性がある。

治験、特に第I相試験において安全性の担保のための救命救急体制が必要である。

治療中の患者さんに、抗がん剤によるアレルギー反応や、点滴反応など重篤な副作用が生じた場合は、速やかに救命救急室（個室）に搬送し、初期救命救急措置を行う。その後、院内の集中治療室に搬送する。



患者支援の充実：外来化学療法ホットライン

- 対象患者

外来化学療法施行中の患者

- 運用時間

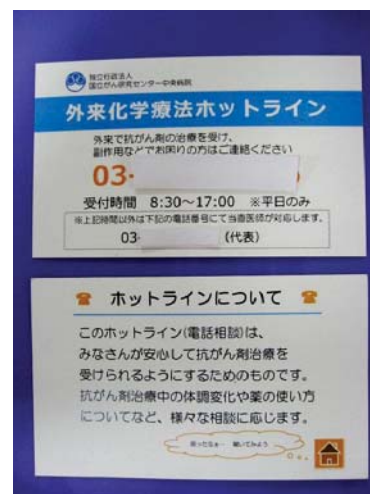
平日 8:30~17:00

- 担当者

8:30~11:00 薬剤師

11:00~15:00 医師

15:00~17:00 看護師（通院治療センター看護師）



National Cancer Center Hospital

9

患者支援の充実 外来化学療法における個別面談

薬剤師：服薬指導

CRC：治験（臨床試験）説明・面談

看護師：治療説明・セルフケア支援・就労支援（MSWとの調整）



対面式の面談室



10